

加賀電子株式会社
2021年3月期（第53期） 決算説明会
主な質問と回答

日 時： 2021年5月27日（木）16:00～17:00
（オンライン説明会）

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会にご参加されなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断でポイントのみ簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

2021年3月期概況について

質問：有利子負債が増加し、売掛回転日数も上がった理由は何か。今後、改善するのか。

回答：エクセルの連結化によるものです。「負ののれん発生益」を約80億円計上しておりますが、エクセルの運営資金に回っており、その分、有利子負債が増えております。また、売掛金や買掛金、在庫も加賀電子の水準に比べますと、エクセルは劣後しておりますが、エクセルにおいても、従来在庫に対する概念を変え、加賀電子同様の運用を徹底することで、今後改善していくと考えております。

質問：昨今の半導体不足で、在庫を増やしていくところもある。御社は、在庫を極力持たないことが基本方針だと思うが、今の考え方を教えて欲しい。

回答：基本方針は変わっていません。車載を含めて安全在庫を持つという動きもありますが、当社グループとしては、安全在庫を持つ場合でも、注文書をいただいた後とすることで徹底しております。

質問：コロナ対策関連の取り組みと今後見通しを教えてください。

回答：カルテック社の光触媒を使用した除菌脱臭機の販売をしております。この他、秋葉原本社および八丁堀の事務所は全て光触媒の抗菌コーティングを施工し、空調にも光触媒をつけましたが、「是非うちもやって欲しい」という依頼が増えております。某大手家電量販店様にも、全店舗への光触媒のLED電球や電灯の設置や、本社に光触媒コーティングをさせていただきました。コロナ影響もありこの光触媒関係のビジネスはますます増えていくのではないかと考えております。

EMS事業について

質問：EMS事業の増益要因は何か。また22年3月期はどうか。

回答：EMS事業は、中国が非常に早く回復したこともあり、中国拠点において予算を大きく上回りました。他の拠点でも、コロナ影響を受けて一時工場を休止したものの、下半期は、概ね順調に回復しました。2022年3月期も引き続き、順調に推移するものと考えております。

将来的には、車載向けを中心に伸ばしていきたいと考えております。半導体逼迫の影響はありますが、受注は4年ほど先まで見えており、現状からは倍増を予定しております。

質問：車載向けEMS事業の構成比はどれくらいか？今後、伸びる業界はどこか。

回答：車載向けの構成比は約30%であり、今後も伸びていくと考えています。車載向けは、数年先まで受注状況が把握できており、3年後ぐらいには50%を超えることも考えられます。ただ、車載の割合が増えてしまうと自動車業界の浮き沈みに影響を受けてしまいますから、特定の業界に偏るのではなく、他の分野、例えば医療機器や産業機器などの比率もしっかり伸ばしていきたいと考えております。

買収企業の PMI について

質問：加賀 FEI における EMS 事業との連動状況はどうか。

回答：加賀 FEI においても順調に受注をいただいております。加賀 FEI は半導体ビジネスを通して、加賀電子では取引がなかった顧客と取引があり、2022 年 3 月期から量産が始まる外資の大手取引先もあります。新規訪問先も 124 社、現在でも 74 社と商談を継続中で、これをさらに増やしていきたいと考えております。

質問：加賀 FEI の構造改革の進捗状況はどうか。利益率は改善されるのか。

回答：システムの違いにより、米国版社の統合が予定より若干遅れましたが、構造改革は概ね完了しております。残すは、韓国版社の統合ですが、22 年 3 月期上半期には完了させる見込みです。加賀 FEI の利益率上昇についても、めどがつつつあると考えております。

質問：エクセルは、22 年 3 月期 7.5 億円の営業利益を計画しているが、達成できるか。

回答：エクセルは、液晶ビジネスが中心で低マージンではありますが、ローコストオペレーションを徹底することで、国内事業は加賀電子と同じぐらいの利益率を取れるようになりました。また、海外事業も低マージンですが、原価の洗い直し、取引の取捨選択、低マージンでもコストのかからない取引の実行など、取組みを大きく変えております。足元では海外のパソコン向けに中型液晶パネルが非常に好調ですが、ドライバー IC の需給が逼迫していることもあり、楽観はしておりません。ただ、前述のとおり体制は整えておりますので、今後、利益を積み上げていくことで営業利益 7.5 億円は達成できると考えております。

次期（2022 年 3 月期）について

質問：22 年 3 月期中計セグメント別の売上高、営業利益の計画値を教えてください。

回答：電子部品事業は売上高 3,030 億円/営業利益 43 億円、EMS は売上高 1,100 億円/営業利益 60 億円、CSI は売上高 450 億円/営業利益 23 億円、その他事業は売上高 120 億円/営業利益は 4 億円です。

質問：22 年 3 月期の加賀電子、加賀 FEI、エクセルでの業績予想を教えてください。

回答：加賀電子は売上高 2,550 億円/営業利益 112.5 億円、加賀 FEI は 1,450 億円/10 億円、エクセルは 700 億円/7.5 億円です。

質問：経済が戻る中、今後、販管費の数値はどうか。

回答：21 年 3 月期の販管費は、交際費、旅費・交通費は予算の 3 分の 1 程度の実績でした。その 2 科目の 22 年 3 月期予算は、前期の半分程度となっております。社員の交通費も定期券の支払いに替え実費精算にするなどしておりますので、販管費は減っていくと思います。

その他経営全般について

質問：次期中計を考えた時に、さらなる M&A も含めいろんな可能性があると考えて良いか。

回答：M&A については常に検討しております。

以上